

# 平成 19 年度 東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修

## ( 情報処理コース )

鬼頭良彦\*

\* 工学研究科・工学部技術部 電子・情報技術系

### はじめに

本研修は、東海・北陸地区国立大学法人等の技術職員に対し、その職務に必要な専門知識及び技術等を修得することによって、資質の向上を図るとともに、技術職員相互の交流に寄与することを目的として実施されている。今年度の研修は静岡大学の主催で、技術職員研修としては初の試みとなる合宿スタイルで受講生全員が研修期間中、研修センターで寝食を共にし、講義は隣接の建物に移動して行うといった形式で開催された、

研修期間は9月25日(火)～27日(木)の3日間で参加者は全員で25名、名古屋大学からは4名が参加した。

### 1 . 研修日程

第1日目 (9月25日)	開講式・オリエンテーション 講義1：情報セキュリティマネジメントの必要性と実際 (総合情報処理センター長 八巻直一) 講義2：セキュリティマネジメントシステム(ISMS) (総合情報処理センター准教授 長谷川孝博) 事例研究(グループワーク)(ITSC 社長 伊藤賢)
第2日目 (9月26日)	事例研究(グループワーク)(ITSC 社長 伊藤賢) 発表会 講義3：リスクアセスメント入門と実践 (総合情報処理センター 准教授 長谷川孝博) 事例研究(グループワーク)(ITSC 社長 伊藤賢)
第3日目 (9月27日)	事例研究(グループワーク)(ITSC 社長 伊藤賢) 発表会 講評・閉講式

### 2 . 研修概要

「情報セキュリティマネジメントの理解と修得」というテーマで静岡大学総合情報処理センターが取得している情報セキュリティマネジメントシステム(Information Security Management System : ISMS)の内容を理解すると共に、実際に運用する場合の手法についてケーススタディを中心に研修を行った。

### 3 . 講義

講義1：情報セキュリティマネジメントの必要性と実際

静岡大学で ISMS を取得する際の大学内外の情勢及び必要性の説明と ISMS を取得するまでの大学としての取り組み方や活動内容の説明がされた。

#### 講義 2：セキュリティマネジメントシステム (ISMS)

ISMS を行う上での考え方や検討方法の流れと実際に行う場合に必要とされる資料を作成するための手法等を説明された。

#### 講義 3：リスクアセスメント入門と実践

ISMS を行う上で必要となるリスクアセスメントについての考え方や手法を説明された。

## 4．事例研究

事例研究は受講生を 5 人 / 班に分け、各班毎で ISMS を取得する際に必要とされる項目についての検討を行い、その結果を班毎に発表し、発表内容について講師の方が解説や補足説明を行うといった方式で行われた。

事例研究の演習問題として仮想の事務局が想定され、その事務局の情報として間取り図や人員構成、情報資産等の状況資料が準備されており、その資料をもとに ISMS 構築のための項目について各班で検討を行うといった方式で行われた。

検討を行うための演習問題として以下の項目があった。

- ・ 情報セキュリティ基本方針の検討
- ・ 仮想事務局のレイアウトの再検討 ( 予算 2 0 0 万円 )
- ・ 組織のリスクアセスメント方針の文書化
- ・ 資産価値評価のリスク受容基準値の決定
- ・ リスク受容テーブルの作成
- ・ 情報資産の洗い出し
- ・ 情報資産毎のリスクアセスメント実施
- ・ リスク対応計画書策定
- ・ 管理策の手順書・規則の策定
- ・ 管理策の有効性の測定

## 5．発表会

最終日の発表会では各班でそれまでの事例研究で導き出した検討結果を総合的にまとめ、発表を行った。

## 謝辞

本研修の企画・実施をしていただいた静岡大学の方々、研修センターで受講生と一緒に宿泊をしてお世話をしていただいた方々に感謝の意を表します。